

# 総 説

## 1 沿革・地勢

現在の府中市は、昭29(1954)年3月31日芦品郡府中町、岩谷村など周辺6カ町村が合併して市制を施行「府中市」が誕生。その後4カ町村を編入し、また、昭50(1975)年2月1日芦品郡協和村、平16(2004)年4月1日に甲奴郡上下町を編入合併し、現在の市域となっています。

府中市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、面積の大半が山地で、三方を山で囲まれて盆地を形成しており、西北部から東南部にかけて、県内三大河川の一つである芦田川が縦貫しています。その流域の両側には、平野が広がり、美しい山並みを背景に、住宅、商店、工場などが立ち並び、市街地が展開しています。山系は、神石及び世羅方面からのびた中国山脈の余脈で、標高400m～770mに及ぶ小規模連山が市街地の西・南・北部を囲んでいます。

河川は、芦田川水系に属しており、源を三原市大和町の溪谷に発し、世羅盆地を貫流して本市に流入し、さらに福山市を経て瀬戸内海に注いでいます。上下町は、分水嶺の町として知られており、福山・三次両市の間の高地で陰陽の分水界をかたち作っています。

市街地では、律令時代の頃、備後国府が置かれていたと伝えられ、数多くの遺構・遺物が出土し、現在備後国府の解明に向けて、発掘作業が続けられています。上下の古い町並みは、幕府の天領として栄えた白壁や銀山街道などは貴重な歴史的遺産です。

府中市は田園都市として発足しましたが、伝統産業の育成に努め「府中タンス」、「鋳造品」、「備後かすり」、「府中みそ」などは時代の変化に対応しながら地場産業として発達しました。その後、「非鉄金属ダイカスト製品」、「建設・工作機械」、「旋盤用チャック」などの近代産業はたゆまない企業努力により驚異的な発展を遂げ、府中市の上場企業では「リョービ」、「北川鉄工所」、「ヤスハラケミカル」、「北川精機」は、全国はもとより世界中に販路を拡大し、飛躍を続けています。

しかし、工業の順調な発展に伴い、市街地内の用地の狭さや公害問題などが生じてきました。そこで、住・工分離を図り快適な生活環境を確保するとともに、工業を一層発展させる目的で、昭50(1975)年5月に、市の中心より北東の山間部に「本山工業団地」を造成しました。その後さらに、工業用地の不足が深刻になったため、平3(1991)年9月には「本山工業団地」に隣接して「鵜飼工業団地」を造成しました。また、地場産業の高度化と人口の安住促進のため、平13(2001)年4月には「鵜飼工業団地」に隣接して、「桜ヶ丘団地」を造成し分譲を進めています。

これらの住宅・工業団地の造成によって、生活環境や操業環境の向上といった所期の目的を達成することができた反面、市街地の無秩序な拡散や、商業の国道沿いへの転出によって中心市街地の空洞化が進むなど、解決すべき課題も残されています。

文化面では、市立図書館が平4(1992)年5月に開館し、中心市街地の地域の景観にマッチした外観で、最新の技術を結集した近代図書館として市民に親しまれています。さらに平16(2004)年4月に保健福祉総合センター「リ・フレ」が開館し、子供から高齢者まで市民一人ひとりが、毎日をもっと楽しく健康で安心して暮らすため、体力づくりと生きがいづくりのできる、交流館が誕生しました。また生涯学習センター「TAMスクエア」が、学習機会の提供、学習情報の発信、学習相談、地区公民館の支援・指導

などを通して、市民の皆さんの生涯にわたって行う学習活動を支援する拠点として、平17(2005)年4月9日に開館し、多くの市民に利用されています。

子どもたちが「遊び」「楽しみ」「考え」「創り」「学ぶ」施設、“POM府中市こどもの国”(ポム)の中核になる児童会館は、プラネタリウム室、天文台ドーム及び多目的ホール等を備え、さらに、まわりには桜づつみ、水辺のプラザ、ラジコンカーのサーキット場も整備され、多くの市民の憩いの場となっています。

平20(2008)年4月に日本たばこ産業株式会社府中工場跡地に府中市立東小学校、西小学校、岩谷小学校、広谷小学校と府中市立第二中学校を統合し、小中一貫教育の中核となる「府中学園」が開校しました。府中学園は、先駆的な小中一貫教育の実践だけでなく、地域の交流・憩いの場として活用され、学校を中心としたまちづくりに大きく寄与しています。

さらに、平成21(2009)年4月に広谷小学校跡地に広谷保育所、元町保育所、府川保育所を統合し「新広谷保育所」を整備します。新広谷保育所は、保護者の多様な保育ニーズに応えるため、休日保育や病後児保育などの特別保育事業を実施します。併設する子育て支援センターでは、子育て相談、地域で子育てを応援するファミリーサポート事業などの子育て支援を行います。

交通面では、都市計画決定をした府中市新市線や府中南北道路(府中松永線・新山府中線)の整備が進められています。特に府中南北道路は、扇橋周辺的安全確保や渋滞解消のほか、山陽自動車道福山西ICとを連絡する主要幹線の機能を併せ持ち、その早期完成が望まれているところです。

平成16(2004)年4月の府中市と上下町の合併に伴い「府中市・上下町まちづくり構想」あるいは「府中市・上下町合併建設計画」に基づき、合併後の府中市の将来像やまちづくりの基本理念及び基本方向、合併による効果等について検証しながら計画を進めており、合併後の「府中市総合計画」の策定を進めものづくりの伝統を活かした産業が活発で、豊かな自然や歴史に囲まれ、住民が元気にのびのび暮らせるまちをイメージし、“リ・デザイン 未来を拓くものづくり都市・府中”実現に向けて着実な一歩を踏み出しています。

## 2 位置

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置し、福山市へ18.5km、三原市へ40km、県北の中心都市・三次市へ65kmの地点にあり、北緯34度34分05秒、東経133度14分10秒、海拔27m(府中市役所)にあり、一帯は盆地を形成しています。

市域は、東西17.13km、南北25.54km、面積195.71km<sup>2</sup>、東南は福山市、西は尾道市及び世羅郡世羅町、北は三次市及び神石郡神石高原町に隣接しています。

市街地を中心に主要な道路が東西南北へ放射状に走り、道路網を形成しています。国道486号、愛称「山陽ふるさと街道」が、芦田川に平行して市街地を東西に貫通し、東は国道182号を経て山陽自動車道及び国道2号線に連結し、西は、尾道市において国道184号と結ばれています。現在、尾道松江線が建設中です。北に延びる府中上下線は上下町において国道432号と接続し、中国自動車道及び山陰地方に通じています。南に向かい松永湾に通じる府中松永線などの県道が、近隣市町を結ぶ動脈となっています。

鉄道は、JR福塩線があり、通勤・通学などに利用され、安全確実なローカル線として、古くから親しまれています。この福塩線は、福山市で山陽新幹線・山陽本線と結ばれ、三次市において芸備線・三江線と連絡し、陰陽連絡鉄道としての役割も果たしています。